

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室

1 題 材 ことばをあつめよう

2 題材について

(1) 題材の価値

対象児は、補聴器を装用し主に聴覚口話法により他者とのコミュニケーションをとっている。明朗快活で、他人とコミュニケーションをとることにほとんど抵抗は見られず、通級指導教室で一週間の出来事を話すときも、短い文章であるが自分から進んで答えることができるようになってきている。

このように、自分の思いを言葉で表現しようと努力してはいるものの、難聴に伴う語いの不足から、日常生活で使う言葉についても知らないものが多く、1年生の段階としては、広がりが見られない。そのため、相手との会話が続かなかったり、質問されたことに関しても、間違った受け答えをしてしまったり、うまく自分の気持ちを伝えられなかつたりする場面も見受けられる。

そこで本単元では、身近な物の名前や様子を表す言葉を、対象児のもつ言葉や興味・関心をもとに広げながら、教師とともに集め、会話の中で使うことができるようにする。また、単元を通して、自分から進んで話をしたり、相手の話をよく聞いて答えたり、分からない言葉を尋ねたりしながら、人とのやりとりを楽しむことができることをねらいとする。

指導に当たっては、在籍校の「運動会」や「遠足」などの行事を題材に用いながら、関連する言葉を広げていくことで、興味・関心を高め、言葉を増やす活動に自信をもって取り組むことができるようにする。また、言葉を増やすために、身のまわりでよく使われる言葉の中から、知らない言葉を教師とともに拾い出して調べて確認し、その中のいくつかの言葉を対象児自身が選びながら「ことばのコイン」を作る活動を取り入れ、楽しんで言葉を集めることができるようにする。さらに、単元の終末では、これまで集めた「ことばのコイン」を使って、ゲームをしたり、会話をしたりしながら、言葉の定着を図り、会話を楽しむ態度を培うことができるようにする。

このような学習を通して、対象児は、言葉を新たに増やす楽しさを味わいながら、さらにその言葉を使って会話を楽しむ経験を積むことで達成感を味わい、それが将来にわたって自分自身で言葉を増やそうとする態度と、これからの聞く・話す・書く・読むといった言語活動への大きな自信につながっていくと考える。

(2) 題材の目標

- 「ことばのコイン」を作って、身近な物の名前や様子をあらわす言葉を集めて、会話の中で使うことができる。
- 自分から進んで相手とのコミュニケーションを楽しむことができる。

(3) 対象児の実態

		第1学年 男 子	
聴 力		右	左
	裸 耳	1 0 4 dB	1 0 8 dB
	装 用	4 5 dB	5 0 dB
コミュニケーションの実態		・ 話を聞くときには、相手の顔を見ながら積極的に聴覚を活用しようとしている。 ・ 文章を読んだり、人と話そうとしたりする意欲はあるが、言葉があまり豊富でないため、友達との会話の量は少ない。 ・ 相手の話を最後まで注意深く聞き取ろうと努力はしているが、分からない言葉が会話の中や文中に出てきても、そのまま聞き流していることが多いため、指示や質問の意図が理解できず、答えや発表内容がねらいとずれることがある。 ・ 質問に答えるときや、人と会話をするときも、短い文章（2語文程度）で答える場合が多い。 ・ 発音は比較的明りょうであるが、サ行やラ行の発音を苦手としており、興奮す	

	ると発音が聞き取りにくくなる場合がある。
単元の実態	【言葉に関して】 ◎ 運動会や遠足に関係する言葉や身近な言葉の中で、知っていると言えたもの 「すいとう」「おべんとう」「のみもの」「りゅっく」「くだもの」「かき」「たおる」「ちりがみ」「はんかち」 「ぼうし」「かぶる」「うめぼし」「おはし」「わりばし」「いちご」「おにぎり」 ◎ 分からないと言えたもの 「しきもの」「びにーるぶくろ」「おやつ」「おしぼり」「あまぐ」「おちば」「くり」「なし」「すいちゅうめがね」 「かいすいよく」「せなか」「せおう」「ぞうり」 ・ 分からない言葉については辞書を引いて調べることはできないので、教師とともに調べる必要がある。 【書くことに関して】 ・ 平仮名を書くことに関しては抵抗はないが、濁点のつく平仮名を間違えることがある。 【工作的な技能】 ・ 自分から進んで色を塗ったり、切ったりする活動を楽しむことができる。本単元の中で計画している「ことばのコイン」作りにおいても、プラ板に油性ペンで文字を書いたり、オーブントースターを使って安全に気をつけながら自分自身でプラ板を焼いたりすることができる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下のような点に留意して指導していく。

○ 研究の視点1（子ども一人一人の目標に沿っためあての設定）【全体研究の視点1・2と関連】

- ・ 個別の指導計画をもとに、在籍校での学校行事を教材（本単元では「運動会」と「遠足」）にすることで、興味・関心を高め、言葉を増やす活動に自信をもって取り組むことができるようにする。
- ・ 一回の通級指導で、新しい言葉の「ことばのコイン」を無理なく三つ作ることを目標にすることで、会話の中で使えたり、覚えられたりできそうだと感じることができるようにする。

○ 研究の視点2（子ども一人一人にとって分かりやすい授業づくり）【全体研究の視点1と関連】

- ・ この授業で何をすればよいか分かりやすいように、めあてを達成するための手順を、具体的行動でめあての下に掲示し、活動が進むごとに矢印を移動させることで、自分が今何をしているかを常に確認することができるようにしておく。
- ・ 言葉の指導をする際には、視覚的な情報（ことば絵辞典、百科事典、写真、実物、VTR など）を多く用いながら教師と一緒に調べ、新しく出てきた言葉については、板書も赤色を使い目立つように工夫することで、新しい言葉を入力しやすいようにする。

○ 研究の視点3（「やった!」「できた!」を感じる授業づくり）【全体研究の視点2と関連】

- ・ 「ことばのコイン」にしたい言葉を自分自身で三つ選ぶという自己選択の場を一単位時間の中で準備することで、自分自身で学習を進めているという実感・喜びを味わうことができるようにする。
- ・ 子ども自身で簡単に作ることができ、これまでの学習の履歴が一目で分かり、振り返ることが容易である教具（プラ板を使った「ことばのコイン」）を使うことで、学習を積み重ねていくことに達成感を感じ、主体的に楽しみながら言葉を増やしていくことができるようにする。

○ 研究の視点4（生き生きと活動できる学習環境づくり）【全体研究の視点3と関連】

- ・ 通級指導の一単位時間の大きな流れ（一週間の出来事を振り返る→「ことばのコイン」で前時までの活動を振り返る→めあてを設定し、言葉を集める→新たに「ことばのコイン」を作る→本時を振り返る）を固定し、活動に見通しをもって行動ができるようにする。
- ・ 教育相談や連絡帳を通して、新しく「ことばのコイン」として増えた言葉に関しても連絡し連携を取ることで、家庭や在籍校においても復習してもらう機会を作ってもらい、定着を図るようにする。
- ・ 教師の指示を本人が分かっているかどうか、聞き取れているかどうかを、様子を見ながら質問したり、授業の中で出てきた大切な言葉や、課題となる発音の部分を復唱することで、音声からの入力の状態を確認しながら、言葉の定着や発音の修正を図ることができるようにする。

4 指導計画（全7時間）

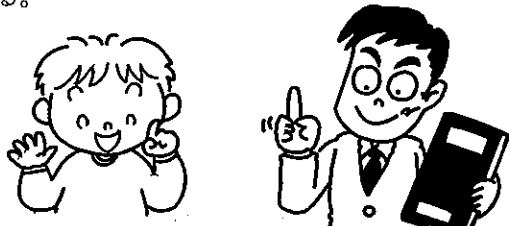
過程	時間	指導のねらいと主な学習活動	教師の支援（●は研究の視点と関連するもの）
1 次	1	「うんどうかいのおはなしをして、三つのコインをあつめよう」 【指導のねらい】 見たこと、したことについて手掛かりをもとに思い出して話をし、その過程で新しく知った言葉の中から「ことばのコイン（様子を表す言葉）」を作ることができる。 【活動内容】 1 運動会で印象に残ったことについての絵を書き、ワークシートに文を書く。 2 見たとき、参加したときの気持ちなど、教師とともに付け加える。 3 新しく知ることができた言葉を三つ選び、「ことばのコイン」を作る。	○ 在籍校での運動会のプログラムや写真を、あらかじめ準備してきてもらうことで、思い出しながら絵を書いたり、話をしたりすることができるようにする。 ● 新しく知ることができた言葉の中から、三つだけを選び、覚えて使うことができるようにすることで、意欲の持続化を図るようにする。 ● めあての具体的行動が達成されたかどうかを評価し、称賛を行うことで、達成感を味わうことができるようにする。 ● 新しく知ることができた言葉をその日の教育相談や連絡帳で保護者や在籍校担任へ知らせ、定着を図ることができるようにする。
2 次	3	「えやしゃしんをみて三つのコインをあつめよう」 【指導のねらい】 絵や写真を見て、どんな言葉が当てはまるかを考えて発表し、その過程で新しく知った言葉の中から「ことばのコイン（様子を表す言葉・物の名前）」を作ることができる。 【活動内容】 1 絵についてどんな様子か話す。 2 ふさわしい言葉を調べて書き込む。 3 新しく知ることができた言葉を三つ選び、「ことばのコイン」を作る。	○ 絵や写真は、学校生活で関係のある物、家庭生活で関係のある物など、身近な物を準備することで、興味・関心を持って学習に取り組んでいけるようにする。 ○ 絵や写真の中の情報を十分に読み取る時間を与え、たくさんの気付きを言葉にできるようにする。 ● 「ことばのコイン」を作るための道具や機材や、調べるための事典等は、いつでも自由に使えるようにしておくことで、主体的に活動ができるようにする。
3 次 (本時)	1	「えんそくにいくときにもっていくもののなかから三つのコインをあつめよう」 【指導のねらい】 遠足で必要な持ち物について発表し、その過程で新しく知った言葉の中から「ことばのコイン(物の名前)」を作ることができる。 【活動内容】 1 遠足のとき必要な持ち物と、必要でない物について発表する。 2 知らない言葉について調べる。 3 新しく知ることができた言葉を三つ選び、「ことばのコイン」を作る。	○ 最後まで相手の話をよく聞き、話の中で分からない言葉に気付いたときには、自分から尋ねるように促すことで、言葉を増やす機会を逃さないようにする。 ● ことば絵辞典、百科事典、写真、実物など視覚的な情報を多く用いることで、対象とする言葉の意味を理解しやすいようにする。また、特に押さえたい言葉に関しては、自作のVTRを準備し、それを視聴することで、新しい言葉を入力しやすいようにする。
4 次	2	「ことばのコインでおはなしをしよう」 【指導のねらい】 これまで集めた言葉を、会話の中で使うことができる。 【活動内容】 1 「ことばのコイン」を数える。 2 これまで集めた「ことばのコイン」を選んで、その言葉を入れて会話をする。 3 「ことばのコイン」でカルタをする。	● これまで集めた「ことばのコイン」を使って会話をしたり、ゲームをすることで、楽しみながら言葉を使えるようにする。 ● 教師の話を最後までよく聞いてから答えているときには称賛の言葉掛けを行い、そうでない場合には、聞き取れているかどうか質問する。

5 本 時 (5/7)

(1) 目 標

遠足に行くときに必要な持ち物と、必要でない持ち物について名前を確認しながら分けることができ、その過程で新しく知った言葉の中から、三つの言葉を選んで「ことばのコイン」を作ることができる。

(2) 展 開 (45分)

時間	主 な 学 習 活 動	教師の支援 (●は研究の視点に関すること)
始 業 前 (分)	◎ 補聴器の点検をする。 ・ 本体やイヤモールドの汚れ、電池残量のチェック	○ 補聴器をきれいに拭いたり、電池の消耗の程度を確かめたりすることで、補聴器を良い状態に保つことができるようにする。
(15)	1 はじまりのあいさつをする。 2 先生とお話をする。 ・ 学級便りや日記をもとに、「だれが」、「どうした」に注意しながら、1週間の出来事について話す。 3 これまでの学習で作った「ことばのコイン」で、言葉を集める活動を振り返る。 (1) 前回の学習で作った3枚の「ことばのコイン」について、説明できるか振り返る。 (2) これまでの「ことばのコイン」の中からいくつかを選び、説明できるか振り返る。 4 本時のめあてを確認する。 えんそくにいくときにもっていくもののなかから、三つのコインをあつめよう。 (1) めあてを声に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。	○ 通級までの一週間にあった出来事を子どもと会話し、受け答えの様子を観察することで聞こえの状態を把握する。また、会話の中で助詞の使い方や、ラ行、サ行の発音に誤りがあった場合には、その場で修正したり練習したりする。 ○ 前回までの通級指導において学習したことを「ことばのコイン」を使って再度振り返ることで、定着を図ることができるようにする。 ● めあてを達成するための行動を具体的に示すことで、何をすればよいかという見通しをもつことができるとともに、振り返りの場面で自己評価しやすいようにする。 ● 子どもが、対象とする言葉のイメージを想像しにくい場合には、ことば絵辞典や実物の載っている事典、VTR 等を活用し、イメージ豊かに言葉を広げることができるようにする。
(25)	5 言葉を広げて集める。 (1) 先生が遠足に持っていこうとしているものはどんな名前なのか、どんなことに使う物なのか発表する。 (2) わからない言葉があったら先生と調べる。 (3) 新しく出てきた言葉や、覚えたい言葉を三つ選ぶ。 (4) 選んだ言葉で三つの「ことばのコイン」を作る。 	○ 言葉の意味が分からないときには質問するように促すことで、定着していない言葉を実際に拾い上げて、その場で調べたり確認したりして、言葉を増やす機会を逃さないようにする。 ● 新しく出てきた言葉は、確認しやすいように赤色で板書することで、言葉の広がりを実感できるようにする。 ● 本時の中で出てきた言葉の中から、「ことばのコイン」に書く言葉を三つ選択させることで、自己選択の喜びを感じることができるようになる。
	6 本時の活動を振り返り、自分の頑張ったことを発表する。 (1) めあてについて振り返る。 (2) 本時で作った三つの「ことばのコイン」を自分の宝箱に入れて、これまでの枚数を確認する。	【指導のポイント】 ○ 特に押さえない言葉については、あらかじめ実態を調査し、その言葉についての実物提示や発問、説明等の準備をしておくことで、ねらいが達成できるようにする。
(5)	7 おわりのあいさつをする。	● 今日の学習をめあてと結びつけて振り返り、称賛や励ましの言葉かけをすることで、次時の活動への意欲を高めるようにする。